

市民と議会の意見交換会報告書

令和4年11月4日

白石市議会議長 小川 正人 殿

報告者 厚生文教常任委員会（2班）

（班 長） 四 竈 英 夫

白石市議会意見交換会開催要領の規定に基づき、次のとおり報告書を提出します。

日 時	令和4年10月23日（日） 10時00分 ～ 15時30分		
場 所	白石市中央公民館 大ホール		
出席議員	（班長）四竈 英夫	（書記）佐久間 儀郎	松野 久郎
参加人数	4 人 （男 3人：女 1人）		
意見交換	【意見交換の内容】 ワークショップ テーマ：子育てについて ※ 詳細な内容は、別紙「意見交換での意見、課題等」のとおり		

(別紙)

意見交換での意見、課題等

意見交換での意見、課題等

厚生文教常任委員会（2班）

【テーマ】子育てについて

【参加者から】

- ・家の中で一人、スマホ操作に集中して外で遊ばない。
- ・平気で人を傷つけてしまう。

【班の意見等】

スマホについては、小学校は駄目、中学校も原則禁止です。他方、学校では勉強に使うことを条件に、タブレット端末を貸し出しています。こうした状況との兼ね合いがあると思います。スマホには様々な機能が備わっていますので、ややもすると操作中に知らない有料サイトに入ってしまう、請求・金銭トラブルに発展するリスクもあります。これは大人も同じです。

また、平気で人を傷つけてしまうのは、人の心の痛みが実感として分からないこと、ゲーム感覚、人命がリセットできるような安易な思い違いにあるのでしょうか。

最悪の場合には事件につながる恐れもありますから、心身の痛みを自覚できる成長のために、家庭内のしつけなど、幼少時からの家庭における育て方が最も大切なことと考えます。子どもたちのゲームの遊び方と SNS 等の使い方については、親子で約束事を決めて、これを守るように家庭内で冷静に話し合いすることが望まれます。

【参加者から】

- ・市民の一人として、少子化は大変な問題と考えています。退職後、少しでも子育て中の方々の力になりたくて、ファミリーサポートの会員になっています。もっと市民には、ファミリーサポートセンターを活用して欲しいと思います。

【班の意見等】

ファミリーサポートセンターは、市民による相互支援制度として、積極的に活動を推進することで、仕事と子育ての両立と家庭生活の安定を図り、安心して子育てができる環境を整備し、子どもと保護者の福祉の向上を図っています。

令和3年度の市の報告では、前年度から30人の会員数の増加があり、本年3月31日現在で544人が会員登録されています。

このことは広報誌の発行などPR、周知の成果と思います。なお一層、センターの利活用が増えるような取り組みが必要と考えています。

【参加者から】

- ・地区内の遊び場確保が難しい。放課後の居場所として、空き教室の活用を進められないか。また、学校管理内での登下校も含めた児童の安全点検の仕組みが必要ではないかと考えている。

【班の意見等】

市内郡部の小学校区では同じ悩みを抱えており、放課後の子どもたちの居場所として空き教室の活用を図っている事例があります。

制度上、文部科学省の「放課後子ども教室」は、越河小学校、厚生労働省の「放課後児童クラブ」は大平小学校、福岡小学校、深谷小学校において地区民の協力を得ながら運営されています。

こうした実際の事例を研究され、是非、制度の有効な活用を期待します。

【参加者から】

- ・白川地区では、乳幼児をもつ親御さん同士のコミュニティを図るために、親子のふれあい遊び（愛称：きらきらタイム）に取り組んでいる。

【班の意見等】

素晴らしい取り組みであると思います。こうした活動を活かしつつ、小学校児童のために地区民を結集・組織化され、放課後の居場所づくりに発展するよう望みます。先進地区では、助言や経験の伝授を惜しまないものと考えます。